

平成29年度 港湾振興費の内三河港利用促進戦略検討調査業務委託 実施概要 (愛知県三河港務所 委託事業)

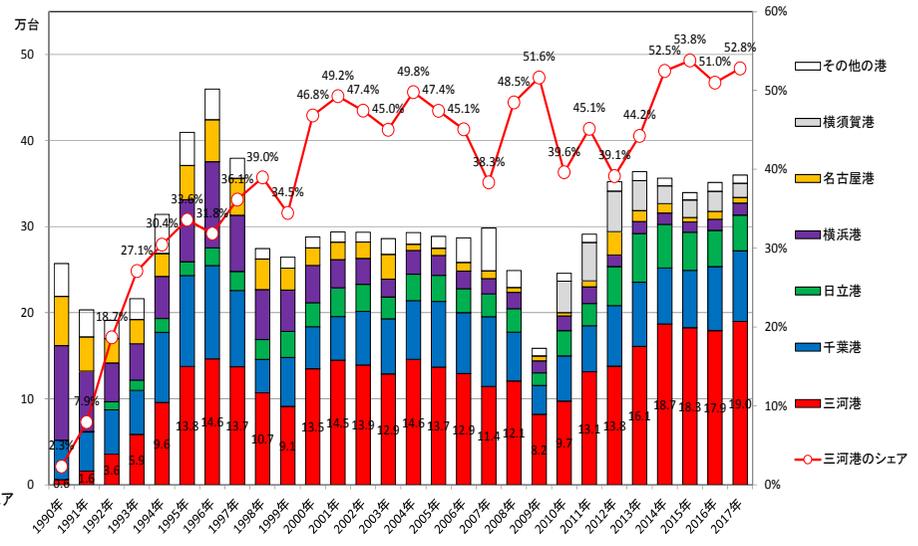
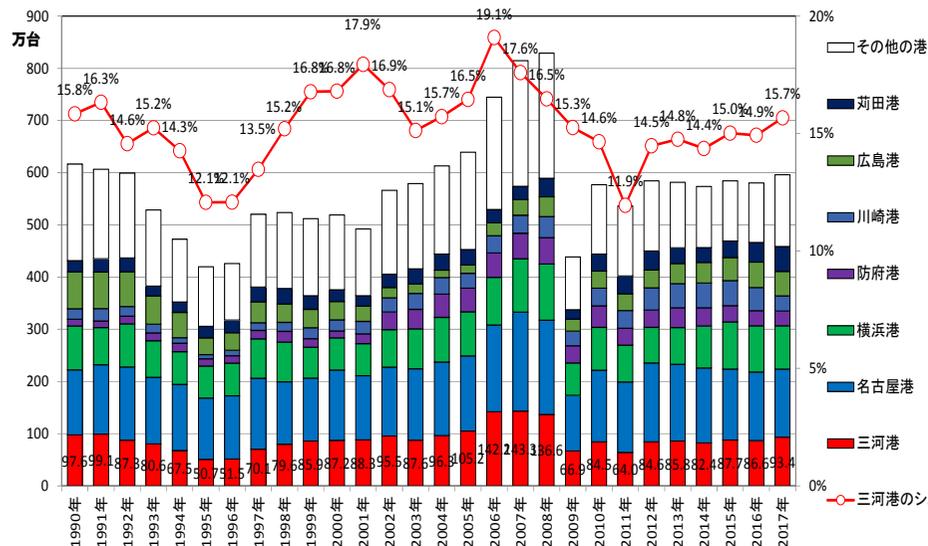
1. 業務の目的

三河港は世界的な自動車輸出入港湾であり、完成自動車は全貨物取扱量の75%を占める。完成自動車の動向は三河港の取扱貨物量に直結しており、適切な状況把握やそれに伴う施策の実施は必須である。

本調査は、三河港の主要自動車企業、港運事業者へのヒアリング調査等により完成自動車取扱状況、将来見通し、三河港利用課題を把握した。また、完成自動車を取扱う他港へのヒアリングによりモータープール不足などの課題の対応や港湾整備の取り組みを調査した。

さらに、三河港背後圏のコンテナ貨物の流動調査、荷主ヒアリングから潜在的コンテナ量の推計や利用課題を明らかにし、三河港の貨物取扱量の底上げを図る為、港内低利用施設の潜在的な利用手法、施設ごとの効果的な振興策を検討した。

2. 調査結果(一部抜粋)



■港湾別の完成車輸出台数の動向

2017年の日本から海外への完成自動車輸出台数は596万台で、2016年の580万台から約16万台増加した。

2017年の港湾別の輸出台数をみると、最も輸出台数が多いのは名古屋港の130万台(前年131万台)、次いで、三河港の93万台(同86万台)、横浜港の83万台(同88万台)である。

三河港の輸出シェアは15.7%である。それ以外の港湾では、マツダの輸出拠点である広島港が47万台(同48万台)、日産の輸出拠点である刈田港が47万台(同38万台)となっている。

■港湾別の完成車輸入台数の動向

2017年の海外から日本への完成自動車輸入台数は35.9万台で、2016年の35.1万台から約0.8万台、2%の増加となった。

2017年の港湾別の輸入台数をみると、三河港が18.9万台で(前年17.9万台、前年比6%増)で25年連続全国1位となった。三河港の輸入台数の全国シェアは前年比1.8ポイント増加して52.8%となった。

三河港に次いで、千葉港が8.1万台(同7.4万台)、日立港が4.1万台(同4.2万台)、横須賀港が1.6万台(同2.3万台)である。BMWの輸入拠点である千葉港の輸入台数が前年比10%増加している。